

令和2年度

学校改善支援プラン

I 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果分析

◆1 全体的な分析

教科に関する調査の結果に加え、児童生徒質問紙調査の結果については、“秋田わか杉 「七つのはぐくみ」”に関連する質問事項を取り上げてまとめています。

◆2 学習指導の改善・充実に向けて

児童生徒の実態を捉えて学習指導の改善・充実を図るために、調査結果について誤答に着目した分析を行い、それを踏まえて指導のポイントを示しています。

II 授業改善の充実と教員の指導力向上に向けて

～ 質の高い学びの実現を目指した特色ある取組と

共同研究や校内研修において工夫の見られる取組 ～

III 検証改善委員からの提言

*平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の本県の結果には、各教科の良好な状況に加え、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けている状況が表れています。検証改善委員会では、このような結果を導いている本県の教育環境や学習指導の状況等について分析するとともに、これからの本県学校教育の一層の充実に向けて、主に授業改善の視点から提言をまとめました。

*「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」は、以下「令和元年度全国学力・学習状況調査」と表します。

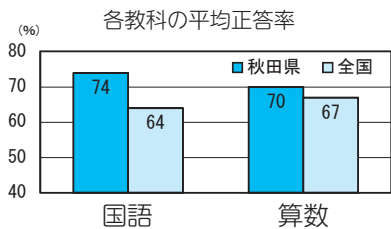
I 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果分析

1 全体的な分析

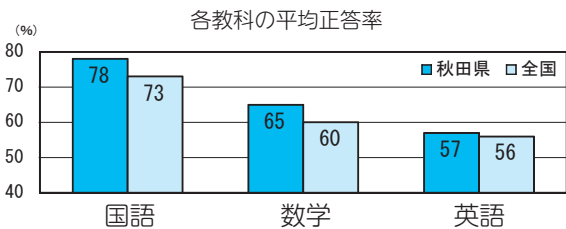
【教科に関する調査の結果】

○各教科の平均正答率は、小・中学校ともに全国平均を上回っており、良好な状況であるといえます。
○小・中学校ともに、ほぼ全て（小：92.9%，中：87.2%）の問題において、平均正答率は全国平均を上回っています。

小学校6年生



中学校3年生



※ 1 全国平均正答率は、文部科学省が公表している数値を四捨五入し、整数値として算出しています。
※ 2 中学校英語の平均正答率は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を集計したものです。

【児童生徒質問紙調査の結果】

(1) “秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”に関する児童生徒の意識について

○県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果の分析を基にして、平成27年度に“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を策定し、本県の学校、家庭、地域等が手を携えて築いてきた教育環境をまとめました。策定から5年が経過した現在の本県の状況について改めて把握するために、“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”に関連する質問事項を全国調査から1つずつ取り上げ、その結果を次のようにまとめました。それぞれの質問事項に対する肯定的な回答のうち、「当てはまる」と回答した割合は、全国平均を6～19ポイントほど上回っています。児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の手厚い協力等の望ましい教育環境を、引き続き大切にしていきたいものです。

上段：“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の項目 下段：関連する全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の質問事項	小学校6年生	中学校3年生
一 早寝 早起き 朝ごはん 生活リズムは全ての基本 〔質問〕 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	66.7 (+ 8.0)	64.4 (+ 7.4)
二 元気なあいさつ 明るい返事 規則 約束 守るわか杉 〔質問〕 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	90.6 (+ 5.6)	85.8 (+ 7.5)
三 読んで 話して 書いて 高める 「問い」を発する思考力 〔質問〕 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	44.0 (+13.7)	45.8 (+17.5)
四 問題解決 子どもが主体 授業の続きは家庭で学習 〔質問〕 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	46.1 (+13.1)	39.5 (+10.2)
五 職場体験 インターンシップ 地域で育む子どものキャリア 〔質問〕 今住んでいる地域の行事に参加していますか。	55.8 (+18.6)	31.7 (+10.7)
六 学校や地域で語り合い 将来の夢 家族でえがく 〔質問〕 将来の夢や目標を持っていますか。	75.3 (+ 9.4)	54.4 (+ 9.5)
七 ふるさとを支える自覚と志 みんなでつくる未来の秋田 〔質問〕 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。	61.9 (+15.2)	40.1 (+14.3)

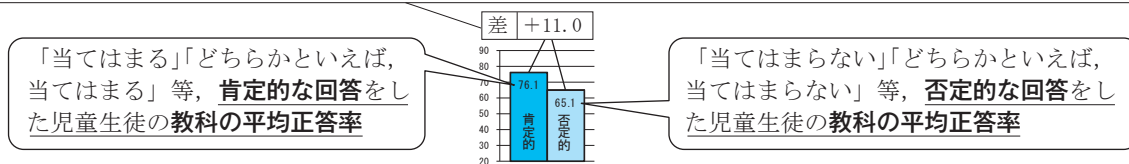
※上段の数値は、「当てはまる」と回答した割合（%）、下段の（ ）内の数値は全国比

(2) 国語、算数・数学、英語に関する意識について

本ページ以降に示すクロス集計のグラフの見方

児童生徒質問紙と平均正答率のクロス集計

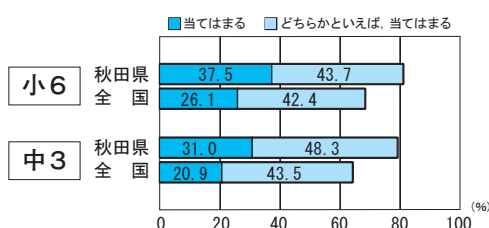
…「児童生徒質問紙の調査結果」と「教科の平均正答率」の2つを組み合わせ集計したもの
「肯定的な回答をした児童生徒の教科の平均正答率」から「否定的な回答をした児童生徒の教科の平均正答率」を引いた数値



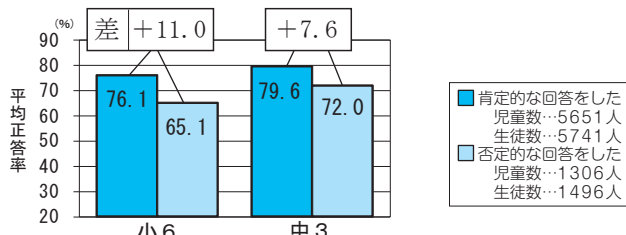
○国語、英語では、クロス集計の分析から、次の質問事項に対して肯定的な回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られました。また、算数・数学では、2つの質問事項の関係性についての分析から、顕著な特徴が見られました。

【国語】「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由（根拠）を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか。」

全国との比較



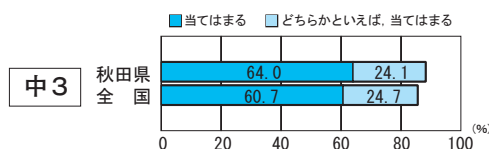
児童生徒質問紙と平均正答率のクロス集計



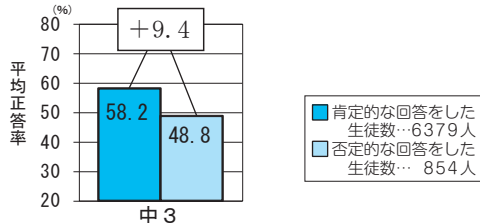
この質問事項は国語に関わるものとして扱われていますが、他教科等の学習でも必要となる力です。国語での指導を要しつつ、各教科等の特質と児童生徒の学習状況の実態等に応じて、全ての教科等において言語活動の充実を図り、言語能力を育成することが大切だと考えられます。

【英語】「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」

全国との比較

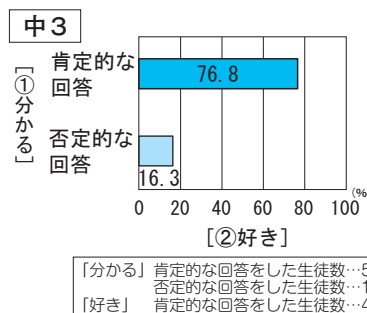
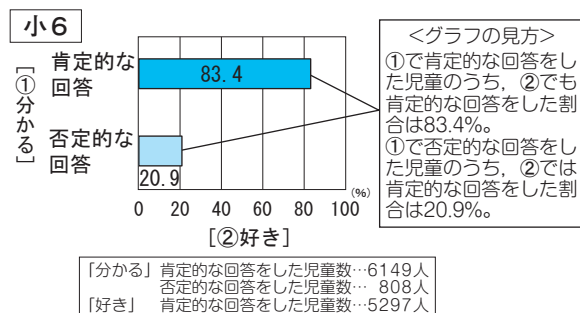


生徒質問紙と平均正答率のクロス集計



学習した内容と実社会との関連に着目させるなどの指導の工夫が、正答率にもよい影響を与えることが分かります。児童生徒が学習したことの意義や価値を実感することで、自分の目標や解決したい課題が明確になるため、主体的に学習に取り組む意欲が高まります。学校で学ぶことと自己の将来とのつながりを児童生徒が見通すことは、学びに向かう力の育成につながるものといえます。

【算数・数学】「①算数（数学）の内容はよく分かりますか。」「②勉強は好きですか。」



児童生徒にとって「分かる」と自覚することが、「好き」という意識に大きく関わっていることを、データから確認できます。主体的に学習に取り組む態度を形成するためにも、教師は学習内容の系統性や連続性を重視しつつ、児童生徒のつまずきを把握し、改善を図る指導を行ったり補充的な学習を取り入れたりすることが大切だと考えられます。

2 学習指導の改善・充実に向けて

学習指導の改善・充実を図るためには、児童生徒の実態を捉えることが大切です。調査結果における誤答から考えられる児童生徒のつまずきに着目し、学習指導に当たってのポイントを示します。

小学校国語

考えと事実の関係を整理して書いたり、文章構成や書き表し方を工夫したりできるようにする。

1 三

出題の趣旨 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。【書くこと】

解答の状況

数値は本県の反応率 (%)

(正答) 条件①, ②, ③を満たしているもの	39.5
(誤答) 条件②は満たしているが、①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の(1)からのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているもの	23.0
(無解答)	1.0

誤答から考えられる児童のつまずき

- 自分の考えの根拠となることを適切に取り上げて書くこと。
- 目的や条件に応じて、自分の伝えたいことをまとめて書くこと。

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかとこのことも考えました。
※設問中の「条件」の三つの○は、順に、正答の条件の①②③に該当する。

【報告する文章】
3 調査の結果をもとに考えたこと
調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。
なぜなら、

（条件）
○「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
○「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。
○書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の(1)に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。
に入る内容を、次の条件に合わせて書きましよう。

指導のポイント

自分の考えの根拠となることを適切に取り上げて書くためには、考えと事実の関係を整理することが大切である。考えの根拠となる事実の妥当性を検討したり、書いた文章を読み、考えと根拠にずれがないかを確認したりする活動を取り入れることが考えられる。

また、目的や条件に応じて、伝えたいことをまとめて書くためには、文章構成や書き表し方を工夫することが大切である。文章の構成表を作成し、書くための材料の配置を考えたり、伝えたいことに応じて、どこを簡単に、どこを詳しく書くのかを考えたりする活動を取り入れることが効果的である。

中学校国語

記録の取り方を工夫しながら聞き、互いの考えを結び付けて話することができるようにする。

2 三

出題の趣旨 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ。【話すこと・聞くこと】

解答の状況

数値は本県の反応率 (%)

(正答) 条件①, ②, ③を満たしているもの	67.6
(誤答) 条件①, ③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	10.0
(無解答)	4.0

誤答から考えられる生徒のつまずき

- 話合いの話題や方向を捉えて、自分の考えを発言すること。例えば、本問題においては、「土足厳禁」という掲示物の表現をどうするかについて、自分の考えを述べること。

※設問中の条件1・2は、順に、正答の条件の①・②に該当し、「実際に話すように書くこと」が③に該当する。

山下さん ちよつと待つてください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでありますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていなかったことがあります。

倉田さん 賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあらちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

場面③
西野さん (略)

条件1 話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていらないこと」とは何かを明確にして書くこと。
条件2 条件1で示した「どうするか決まっていらないこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

場面③のAで山下さんは、「どうするか決まっていらないこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

指導のポイント

話合いの話題や方向を捉えるためには、記録の取り方を工夫させることが大切である。例えば、ワークシートに話の要点をキーワードとして書き留めさせたり、移動黒板等に話合いの過程を整理して記録させたりすることで、何についてどのような目的で話し合っているのかを常に意識させることが考えられる。また、自分の考えを発言する際には、相手の考えと結び付けながら自分の考えをまとめようと意識させることが大切である。互いの考えを結び付けて話そうとする意識を高めるためには、例えば、話し合う前に、発言の仕方の留意点について考えさせ、相手の考えを取り入れたり生かしたりして発言することの利点や大切さに気付かせていくことなどが考えられる。

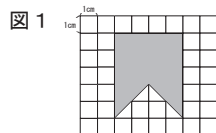
小学校算数

図形の構成についての見方を働かせ、既習の求積公式を活用して面積の求め方を説明できるようにする。

1(3)

出題の趣旨 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。

ゆうたさんたちは、2つの合同な台形で作られた図1の形の面積を求めようとしています。



※「ゆうたさんの求め方」等については略。実際の調査問題を参照してください。

図1の形の面積は、 16 cm^2 であることがわかりました。

【ちひろさんの求め方】

$$\begin{aligned} 5 \times 4 &= 20 \\ 4 \times 2 \div 2 &= 4 \\ 20 - 4 &= 16 \quad \text{答え } 16\text{ cm}^2 \end{aligned}$$

【ちひろさんの求め方】の中の「 $20 - 4$ 」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

指導のポイント

説明し伝え合う活動において、「20や4が何を表しているのか」を児童が説明した後、「 $20 - 4$ の「引く」はどのようなことを表しているのか」を学級全体に問い、演算の意味についても話し合わせることが大切である。このように、問題場面から式を問うだけでなく、示された式について、図形と関連付けて他者に説明する活動を取り入れるなど、数学的な見方・考え方を豊かにし、よりよい表現の方法を学ぶ機会を設定することが重要である。

(正答の条件) 次の①, ②, ③の全てを書いている。

- ① 20が、長方形の面積を表していること
- ② 4が、三角形の面積を表していること
- ③ 減法が、ある数量からある数量を(またはある図形からある図形を)取り去ることを表していること

解答の状況

数値は本県の反応率 (%)

(正答) ①, ②, ③の全てを書いているもの	39.3
(誤答) ①, ②を書いているもの	20.7
(無解答)	2.6

誤答から考えられる児童のつまずき

- ・「 $20 - 4$ 」における「20」や「4」の数値の意味だけでなく、演算の意味を図形と関連付けて説明すること。

中学校数学

問題解決のために数学を活用する方法を考え、的確に説明できるようにする。

6(2)

出題の趣旨 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入してx年間使用するときの総費用をy円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

※大問6の問題文等は略。実際の調査問題を参照してください。

指導のポイント

問題解決の方法や手順を説明させる場合には、「用いるもの」(式やグラフ等)やその「用い方」のいずれか一方の説明では不十分であることを確認し、「用いるもの」や「用い方」の両方について、的確に説明できるように指導する。その際、問題文にある「(総費用) = (本体価格) + (1年間あたりの電気代) × (使用年数)」を用いる式と考えた生徒の誤答や、「用い方」の記述内容の不足している部分について取り上げ、ペアで説明し合うなどして、一部の生徒だけではなく一人一人が説明できる場を設定することが大切である。また、問題解決の過程を見直したり、記述した説明を吟味したりするなど、よりよい解決や結論を見いだす活動を取り入れることも大切である。

(正答の条件)

- アを選択し、次の(a)について記述しているもの、またはイを選択し、次の(b)について記述しているもの。
- (a) 方程式を解いて、使用年数の値を求めること。
- (b) グラフの交点の座標から、使用年数の値を読み取ること。

解答の状況

数値は本県の反応率 (%)

(正答) アを選択し、正答となる記述をしたもの	14.3
(誤答) アを選択し、正答となる記述以外のもの	35.9
(正答) イを選択し、正答となる記述をしたもの	26.6
(誤答) イを選択し、正答となる記述以外のもの	15.2
(無解答)	7.2

誤答から考えられる生徒のつまずき

- ・与えられた式を用いて問題を解決する方程式をつくること。
- ・方程式を解いて値を求めるという式の「用い方」についての的確に説明すること。
- ・グラフの交点の座標から値を読み取るというグラフの「用い方」についての的確に説明すること。

中学校英語

聞いたり読んだりして理解した内容について、適切に応じることができるようにする。

4

出題の趣旨 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。

(放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

(スクリプト)

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

解答の状況

数値は本県の反応率 (%)

(正答) ニックができる部活動についてのアドバイスを、十分又はおおむね理解できる英語で解答しているもの (視点A○ 視点B○)	11.4
(誤答) ニックができる部活動についてのアドバイスになっていないもの (視点A× 視点B○)	36.1
(誤答) 書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあるため、伝えたい内容が理解できないもの (視点A×▲ 視点B×)	19.9
(無解答)	30.7

(採点の視点)

部活動の内容をアドバイスの形で応答する

(視点A) 具体的な部活動についてのアドバイスになっている

(視点B) 理解できる英語で伝えたい内容が書かれている

誤答から考えられる生徒のつまずき

- ・相手から依頼されていることを正確に聞き取ること。
- ・誤りのない文法事項等を用いた表現で、自分の考えを相手に伝えること。

指導のポイント

話し手からの働き掛けに対して適切に応じるためには、相手の意向を正しく理解する必要がある。聞き取りのポイントとして、話の中で繰り返し用いられている語(句)に注目して話の要点をつかんだり、疑問詞を手掛かりにして相手が本当に聞きたいことは何なのかを把握したりすることが大切である。質問や依頼、提案などを聞いて理解し、適切に話したり書いたりする活動を授業で繰り返すことで、体験的に身に付けさせていく必要がある。

TOPIC

「英語の勉強が好き」という意識と言語活動の関係性

「英語の勉強が好き」という意識と授業における言語活動には、何か関わりがあるのでしょうか。

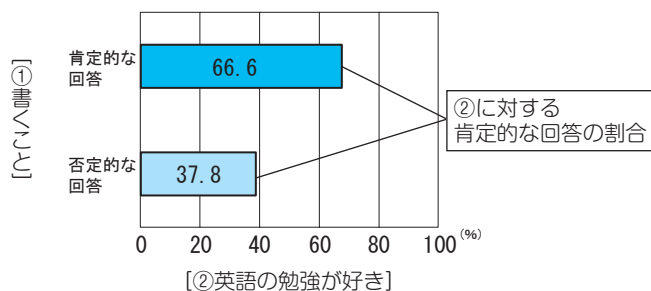
下のグラフAは、「①自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたか」と「②英語の勉強は好きか」のそれぞれに対する生徒の意識の関係性について示したものです。この結果から、①で肯定的な回答をした生徒のうち、②でも肯定的な回答をした割合は約67%である一方で、①で否定的な回答をした生徒のうち、②では肯定的な回答をした割合は約38%にとどまっております。「英語の勉強が好き」という意識に関して差があることが分かります。

また、下のグラフBは、質問事項①と平均正答率のクロス集計について示したものです。この結果から、①で肯定的に回答した生徒は、否定的に回答した生徒よりも平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

これらのことから、「英語の勉強が好き」という意識と「書くこと」に関する学習活動の設定には関係性があると捉えることができると思います。

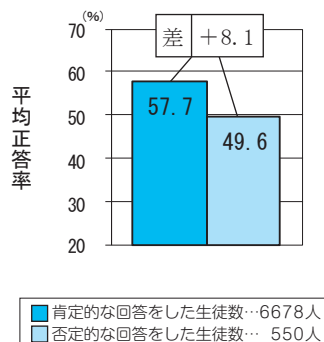
英語の学習では、「書くこと」を含む5つの領域の言語活動をバランスよく取り入れ、その充実を図ることで、「英語の勉強が好き」と捉える生徒を増やすことにつながるものと考えられます。

グラフA ①書くこと ②英語の勉強が好き



【書くこと】 肯定的な回答をした生徒数…6678人
否定的な回答をした生徒数… 550人
【英語の勉強が好き】 肯定的な回答をした生徒数…4663人

グラフB ①書くこと と平均正答率のクロス集計



肯定的な回答をした生徒数…6678人
否定的な回答をした生徒数… 550人

Ⅱ 授業改善の充実と教員の指導力向上に向けて

学習指導要領（平成29年告示）では、「主体的・対話的で深い学び」の視点を大切にしたい質の高い学びの実現が求められていることから、各学校においては児童生徒の資質・能力の育成に向けて授業改善を一層充実させる必要があります。今年度の「学校改善支援プラン」では、県内の学校における質の高い学びの実現を目指した特色ある取組と、共同研究や校内研修において工夫の見られる取組について紹介します。

授業において学び合う活動を充実させるためには、どのようなことに留意すればよいでしょうか。

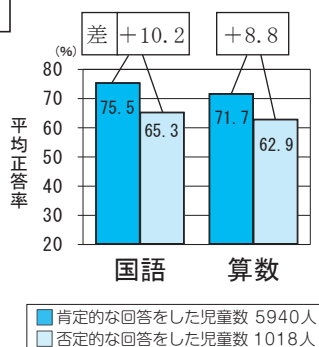


児童生徒質問紙調査から

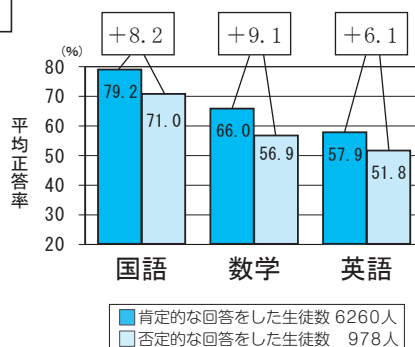
◇「学級の友達と（生徒）の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」

児童生徒質問紙と平均正答率のクロス集計

小6



中3



どの教科においても、肯定的な回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られました。児童生徒が自己の考えを広げ深めることができるようにするためには、教科等の特質に応じて学び合う活動を工夫することが大切です。

学び合いの質の向上を目指した取組（1）

【A小学校】深い学びの実現を目指して、働かせたい主な「見方・考え方」を明確にするとともに、学び合う活動でそれらを実際に働かせられるよう「問い」を重視しています。

<取組のポイント>

- 各教科等の特質に応じて、「見方・考え方」を働かせている児童の姿の具体を検討し、単元や授業を計画している。
- 授業前段では、何に着目して考えるかを児童に問い、学習課題と既得の知識を関連させて、解決の見通しがもてるようにする。
- 学級全体で学び合う場面では、児童の考えや発言を見取った上で、「根拠を問うこと」などを視点とした問い掛けを行い、児童のもつ既得の知識から解決の糸口を引き出すようにする。また、児童が働かせている「見方・考え方」を教師が価値付けるようにする。

<児童に働かせたい主な「見方・考え方」と目指す児童の姿の記載（例）>

第3学年国語科学習指導案

- 単元名 感想文で伝えよう ちいちゃんの思いとわたしの考え
～場面の移り変わりと結び付けて、登場人物の気持ちを想像する～
- 児童に働かせたい主な「見方・考え方」と目指す児童の姿
場面と場面を関係付け、登場人物の様子や気持ちを叙述を手掛かりにして考えること

登場人物の気持ちの変化や性格、情景などについて、場面と結び付けて具体的に想像して読んでいる児童。

具体的には、会話や様子を表す叙述に着目し、登場人物がおかれた境遇や状況、気持ちの変化を考えるという「見方・考え方」を働かせ、二つの場面の「かげおくり」を比較することを通して、ちいちゃんの願いや思いを捉えたり自分の考えをもったりする姿。

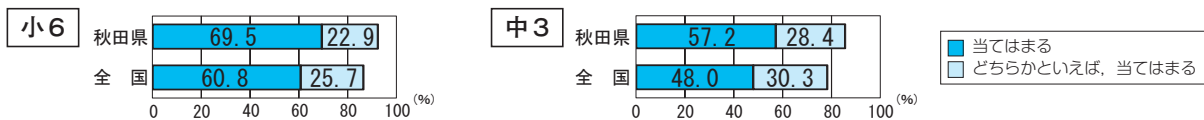
○A小学校では、児童に働かせたい「見方・考え方」を明確にし、その「見方・考え方」を働かせるために必要な教師の手立ての具体化を図っています。このことにより、「問い」を大切にして自分の考えを広げたり深めたりする児童の姿が見られるようになってきています。また、このような実践は、小中連携の視点から校区内の中学校でも同様に行われています。

探究型の授業においてICTを効果的に活用するには、どのような手立てを講じればよいでしょうか。



児童生徒質問紙調査から

◇「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか。」



授業におけるICTの活用に対する児童生徒の関心は、8割を超えています。今後の学習活動においては、積極的にICTを活用する視点をもつことが大切です。

言語活動の場面におけるICTを活用した取組

【D小学校】算数の学習において、自分の考えを发表或し合ったり、話し合ったりする場面などでは、**タブレットを効果的に活用**して学習活動の充実を図っています。

<ICTの活用方法の例(1)>

- ①児童が問題の解き方や説明を自分のノートに書く。
- ②児童がタブレットを使って書いたものを撮影する。
- ③児童が撮影した画像を電子黒板に投影されるように送る。
- ④電子黒板に投影された画像を基に、児童が発表を行う。



<ICTの活用方法の例(2)>

教師が作成したシートを全員のタブレットに配信し、それに対し児童が意見等を書き込んだものを一度に集約して、クラスの状態を捉える。

<ICTの活用による効果について>

- ・発表資料が自分のノートの画像であるため、説明がしやすく、計算途中のノートを取り上げて補足の説明を加えていくなど、**考え方に着目した話し合い**が可能になる。
- ・発表資料を作る時間が短縮され、**比較や検討等の時間を生み出す**ことができる。

<他の活用方法の例>

- ・理科では、実験の様子を撮影した動画を考察の説明に活用する。
- ・体育では、運動の様子を動画で撮影し、再生したものを見て話し合う。

○D小学校では、一人一台のタブレットを学習活動を充実させるためのツールとして取り入れ、ICT機器を“文房具”と同様に捉えて活用を図っています。ICTを用いる場面については、**指導の効果が高まる視点で吟味**し取り入れるようにしています。児童は、タブレット等を気軽に操作し、進んで活用できるようになっています。

授業研究会や校内研修の内容や方法を工夫するには、どのような視点がありますか。



教科等を超えた共通の視点をもって授業の検証を行う取組

【E中学校】「PADカード」を用いた授業の検証に取り組み、今後の指導の改善点について教科等の枠を超えて全員で共有化を図っています。

<PADカードとは>

Passive(受動)、Active(能動)、Deep(深い学び)の各状態を**生徒の具体的な姿**で表したものをこのカードに示された視点を基に、**抽出した生徒を観察**する。

PADカード(国語)抜粋

Passive

- ・放書を写している。

- ・友達の説明や意見を聞いている。

Active

- ・他の考えを自分の意見と比較・分析して聞いている。

- ・学習を通じて生じた新たな考えを、自分なりにまとめるようにしている。

Deep

- ・学習課題の解決につながるような質問や感想が持てている。

- ・自分の考えの変化を、根拠をもって示している。

<PADカードを用いた授業検証> 国語の研究授業時の検証を抜粋

- ①授業者は、授業の展開において、生徒の状態を想定

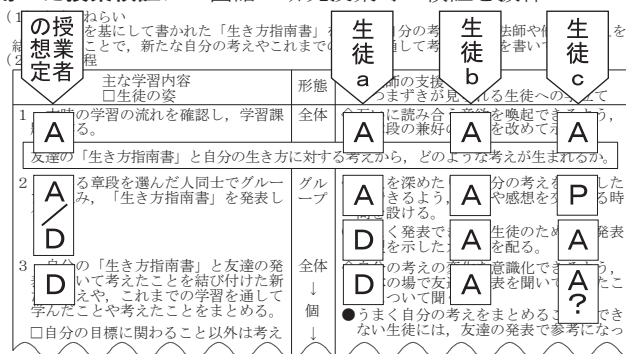
- ②授業者の想定と実際の生徒の姿においてギャップがある点について焦点を当てて検証

- ・ギャップの原因はどこにあるか

- ・どのような改善策があるか

- ③改善策を見いだす

※実際は、授業中に見取った生徒の姿を書いた付箋を学習指導案(拡大したもの)に貼って行っている。



○E中学校では、PADカードに示した視点を基に、研究授業の参観や研修会を行っています。研修会では、**見取った生徒の姿で授業の検証**が行われており、話し合う視点が明確になることから、他教科の教員も積極的に関わることができます。研修会を通して見いだした改善策は、**生徒の実態に応じた具体的な授業改善の手立て**につながっています。

教員それぞれの経験やニーズ等を生かした校内研修の取組

【F中学校】メンター方式による初任者研修の充実を図るために、メンターチームの構成や研修の内容等を工夫して取り組んでいます。

＜メンターチームの構成＞

- ・校内指導教員
- ・中堅教員（初任者担当教科の教科主任）
- ・若手教員（採用4年目）

＜研修の内容等の工夫（一部）＞

- ・初任者が気軽に話したり相談したりしやすい環境になるよう、メンターチームに初任者の年齢に近い教員を入れている。
- ・メンターチームによる研修を時間割に組み込み、計画的に実施している。
- ・初任者からの要望等に応じ、研修内容を変更するなど、弾力的に実施している。

＜校内年間指導計画書（前学期）＞（抜粋）

実施月日 (曜日)	研修内容	領域	研修方法	内 放	研修 時間	主な研修指導者
4.2 (火)	食物アレルギー対応 教師としての心構え 給食指導の進め方	② ① 本	講話 講話 講話	1 1 1	1 1 1	養護教諭・学校医 教頭 栄養教諭
4.5 (水)	学校における生徒指導 学習指導の約束 新年度の学級づくり					生徒指導主事 校内指導教員 特活主任 道徳主任
4.4 (木)	道徳教育の進め方 総合的な学習の時間の キャリア教育の進め方					総合学習主任 キャリア教育主任
4.20 (水)	年度当初の学級事務の キャリア教育の進め方					統括指導教員 統括指導教員
4.27 (水)	授業参観と保護者会					統括指導教員
7.2 (火)	模擬授業づくりの実					統括指導教員
7.5 (金)	教材・教具の作成					メンターチーム
7.9 (火)	基礎技術（成績処理）					校内指導教員・教主任
7.10 (水)	社会 授業実践					統括指導教員
7.12 (金)	学習指導案の作成					メンターチーム
7.16 (火)	学習指導案の作成					校内指導教員
7.17 (水)	三者面談の進め方、家庭訪問の仕方	②	一般指導	1	1	統括指導教員

三者面談のロールプレイ

メンターが保護者役、生徒役を担う。面談時における心構えや留意すること等の確認だけでなく、ロールプレイを通して気付いたことを実際の面談に生かすことができるよう工夫している。

○F中学校では、初任者の実践的指導力の向上に向けて、メンターチームを中心に校内組織を活用しながら研修を行っています。メンターチーム以外の教員も協力的で、授業を見合う取組等は教員自身にとって日頃の指導等を見つめ直す機会となっています。このような取組は初任者に限らず、若手教員に向けた研修にも応用できるものといえます。

家庭学習と授業を関連させたサイクルを構築したいのですが、何か手立てはないでしょうか。



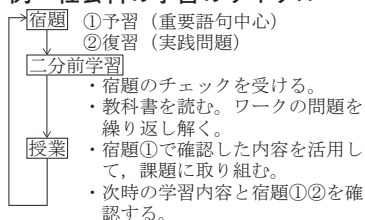
家庭学習の取組の質的向上を目指した取組

【G中学校】全校で「宿題プロジェクト」に取り組み、生徒が自宅に帰ってからの過ごし方を含め、家庭学習と授業での学習との関連性を大切にしています。

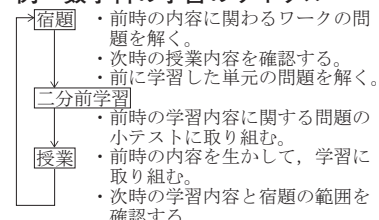
＜「宿題プロジェクト」のねらい＞

- ・授業のまとめと振り返りの充実、宿題の効果的な提示、授業導入時の確認のサイクルにより、授業改善と学力の定着・向上を図る。
- ・生徒一人一人が、家庭学習と授業を関連させて取り組むサイクルを確立することで、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図る。

例 社会科の学習のサイクル



例 数学科の学習のサイクル



○G中学校では、「宿題プロジェクト」による取組を継続しています。各教科の特質を踏まえた上で、家庭学習と授業での学習を関連させた取組は、生徒の学習意欲を高めたり、復習する習慣を身に付けさせたりすることにつながっています。

TOPIC 宿題と反復練習の有効性

秋田県の児童生徒は「家で計画を立てて勉強をする」習慣が身に付いています。秋田県の教育の大きな成果です。また、先生方は家での学習方法を丁寧に指導されています。

それでも「家でどう勉強したらいいかわからない」という児童生徒がいることも事実です。その改善の一つの方法として「宿題」を有効に生かすことが考えられます。学校質問紙を見ると、秋田県は全国に比べ宿題を出す割合がかなり低いようです。

児童生徒によっては、学習の仕方が分かるようになるまでの期間、宿題によって家庭学習を充実させる指導をしてもよいはず。全て宿題でなく、自分で計画を立てた学習と組み合わせるのです。宿題がなくても自分で学習できるようになったら、全て自主学習に移行してよいと思います。

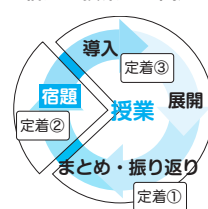
秋田県検証改善委員会委員

秋田大学大学院教育学研究科特別教授 阿部 昇

同質問紙を見ると、秋田県は「計算などの反復練習」の実施率も少ない傾向にあります。しかし、反復練習も大切です。その部分を宿題のかたちで補うという方法もあります。

G中学校では、宿題を生かして授業をより質の高いものにするという取組をしています。宿題で授業の復習や予習をすることで、探究型授業がより切れ味のあるものとなっているようです。探究型授業に全ての児童生徒がより主体的に参加できるようにするためにも、「宿題」と「反復練習」の有効性を見直したらいかがでしょうか。

G中学校の宿題と授業との関連



Ⅲ 検証改善委員からの提言

秋田県検証改善委員会委員長 秋田大学教育文化学部教授 成 田 雅 樹

共通実践・同僚性が学力の底上げの原動力

全国学力・学習状況調査において、一貫してトップレベルを維持している秋田の学力を支えているのは、次のような共通実践・同僚性の広がりであると思います。例えば「よい実践はみんなで取り組み、みんなで改善していこう」とか「教育行政からの提案や要請にはできる限り応えよう」といった先生方が大勢いらっしゃいます。また、秋田の多くの小・中学校では「一人一授業」に組み込み、全ての先生が年に一度は授業を公開して学び合っています。その際、小学校においては学年を超えて、中学校においては教科の枠を超えて、ワークショップ型の協議会に取り組んでいます。さらには、こうした学校の取組に対して、保護者や地域の方々が、子どもの姿や先生方の頑張りを評価し、我が事として応援を惜しまないことも見逃せません。

こうした共通実践・同僚性のおかげで、進級・進学や転校によって学級担任や教科担当の先生が変わっても、子どもはスムーズに学習に入っていくことができます。このような「オール秋田の同僚性」とも言える秋田の県民性、学校文化、教師気質は、今後も大切に守っていかなければなりません。今年度の学力向上フォーラムでは「素直で明るく仲の良い子どもの姿に感動した」といった県外参加者の声が寄せられました。他県では、「笑顔の秋田、規律の福井」と言われていると聞いたことがあります。今後もこの笑顔につながる学びの充実感を大切にしていきたいものです。

「秋田の探究型授業」の改善点

全国学力・学習状況調査には、OECDのPISAや新しい教育課程の教育観が反映されています。この調査において高い成績を収め続けているのは、秋田の授業が「探究型」であるからだと考えられます。しかし、秋田の授業にもまだ十分とは言えない点がいくつかあります。以下にその改善策を4点提案します。

1 学習課題は子どものものになっているか

学習課題の設定においては「主体的な学び」の基盤が成立することが大切です。学習課題は子どもたち自身の課題として認識されなければなりません。しかし、教師が用意した学習課題の短冊を黒板に貼り付けるなど、「教師から下ろす」方式の課題設定も散見されます。

課題意識をもつためには、授業の導入において、分かっているつもりだったことが揺さぶられる「認知的不協和」の場面を作ることが大切です。不思議や驚き、疑問があって初めて「問い」を発する子ども」の姿が見られるのだと思います。

2 学習の見通しをもつ場面で、働かせるべき「見方・考え方」が確認されているか

学習課題の解決の過程を見通すためには「なに（見方）」を「どうする（考え方）」かが明らかになっていなければなりません。例えば、過去の学習で書き留めておいた学習の振り返りを生かすなどして、本単元や本時で働かせるべき「見方・考え方」をしっかりと意識させることが、「深い学び」に至るために欠かせません。

当該単元の主な「見方・考え方」を指導案に明示し、授業では子どもたちにも分かるような表現で板書することなどを、先生方に期待しています。

3 子どもが必要と感じる「対話」になっているか

学習課題に対して一応の答えが得られると、そこで終了する授業を見ることがあります。これでは「浅い学び」ととまることもあります。もう一段学習を掘り下げるための揺さぶりが用意された授業にしていきたいものです。そこで、例えば課題設定のときと同じ原理で、得られた答えでは説明できない反証や例外を提示したり、状況設定を変えても成り立つか問い掛けたりして、これを乗り越える場面を用意します。こうなると一人では困難だったり、限界を感じたりする子どもも出てきます。その際にこそ、子どもたちは真に協働する必要を感じて「対話的な学び」に取り組むのではないのでしょうか。

4 学習の振り返りで「見方・考え方」が扱われているか

子どもたちに「学習の振り返り」の視点を示して、単なる授業の感想から脱却しようとする取組が広がっています。しかし、働かせた「見方・考え方」を子どもが自覚するような働き掛けは依然として弱いと感じます。

「見方・考え方」はいわばメタ認知ですから、子ども自身で自覚することが難しい場合もあります。そうした場合は、先生が問い、子どもがそれに答える形式から始めるとよいでしょう。慣れてきたら、子ども同士で行わせたり、「見方・考え方」に触れた期待通りの振り返りの例を掲示したりして、適切な自覚が得られるように工夫していただきたいと思います。

秋田県検証改善委員会委員 秋田大学教育文化学部教授 佐々木 雅 子

外国語の授業改善について

授業の核は「言語活動」にあることを反映して、全国調査もコミュニケーションの目的や場面、状況が具体的に設定されており、言語活動における指導の改善が求められています。授業を英語でよく行っている割合が48.7%（全国比+22.2ポイント）、ALTの活用が週に数回以上の学校が66.0%（全国比+27.7ポイント）、生徒への質問紙調査（60）～（66）が示すようにコミュニケーション活動も盛んに行われ、無解答率も低い秋田県ですが、改善点も見えます。

コミュニケーションを通して正確性を高める指導力の向上

短答形式の問題では、コミュニケーションに支障を来さない誤り、すなわち「意味は伝わる誤り」が全国平均より高くなっています。この原因が英語での授業の「質」にないか見直して見る必要があります。授業を参観する機会がありますが、確かに英語使用の「量」は多いのですが、生徒の言語使用における誤りの見極めとフィードバックの方法に工夫の余地があると感じられる授業が少なくありません。小学校で何となく通じたレベルを正確なレベルにまで上げる技量が問われています。小学校で親しみ、チャンクで身に付けた表現を、中学校では分析能力を用いて自分で文を創出する力を身に付けさせる必要があります。全体の明るく楽しい雰囲気を保つつも、言語の教師としては、個々の生徒の文法や単語等の言語力そのものを伸ばすための観察力、判断力、指導力の一層の充実が求められていることがデータにより再認識されました。小中連携の形として、中学校の先生が小学校外国語活動や英語の授業を、小学校の先生が中学校の英語の授業を、参観にとどまらず定期的に指導することも行ってみたいかがでしょうか。

異文化間でメッセージを伝え合う英語力の育成

記述式の問題は、「異文化の相手を意識した英語力」を問う問題であり、実用性を備えた英語力を試す問題でした。正答率の低さから実際の場面において発信する力が弱く、コミュニケーションに支障を来す誤り、すなわち「意味が伝わらない誤り」が全国平均より高くなっています。無解答率は低くても、25語未満の生徒が33.4%と全国平均より高く、解答時間の不足を感じている生徒が約半数に上り、全国平均より12.8ポイントも高いことは着目すべき点です。思考力と判断力に基づいた表現力を育成する授業やテストの開発及び指導とテスト・評価の一体化について課題が指摘されていると解釈できます。また、思考力や判断力を伸ばすには、主体性の育成も欠かせません。授業のToday's Goalを前時の振り返りとより強く連携させ、授業と授業の間の生徒の主体性を育む仕掛けを充実させることが必要だと思っています。さらには、主体的な言語習得を促進させ得る、海外の学校との国際交流による言語使用環境や、図書館などの学習環境が整備され、英語教育が豊かに展開されることを期待します。

本県の小・中学校のよさを生かし、更に充実・発展させるために

一人一人の学力を伸ばすあきたの学校 ～5つのエッセンス～

検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査のデータを基に、「安定した成果を示している学校」「課題の改善状況が顕著である学校」がもつ特長から、学力向上を支える関連因子を見付け、それらを「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」としてまとめてきました。各学校において、この「5つのエッセンス」を、児童生徒の一層の学力向上に活用していただければ幸いです。

① 学校体制でPDCAサイクルを生かした共同研究

効果のある取組を進めている学校では、教科や学年・校種を超えた、教員の共同研究が推進されています。学校質問紙では、「全国調査の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、教育指導の改善を行っている」「全国調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有している」などが全国の結果を大きく上回っており、本県が提唱する全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査、高校入試を一体として捉えた検証改善システムの充実が図られています。

② 子どもたちが安心して学習できる環境づくり

児童生徒質問紙では、「自分にはよいところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれている」「将来の夢や目標を持っている」などが全国の結果を大きく上回っています。これは子どもたちが前向きで真摯な姿勢であることはもちろんですが、児童生徒のよさや可能性を積極的に評価して、自己有用感をもたせようと工夫を凝らしている本県の教師・学校のきめ細かく温かい学習環境づくりが生み出した結果です。

③ 子どもたちの思考を促し深める探究型の授業づくり

本県では、児童生徒が問題を発見し話し合うなど、他者との関わりを通して、主体的に問題を解決する探究型授業が盛んです。児童生徒質問紙では「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」などが全国の結果を大きく上回っています。今後は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、児童生徒一人一人の学びの質を高めることが一層求められます。

④ 自発的学習を生み出すきめ細かな指導

子どもたちに確実に学力を身に付けさせるためには、自発的な学習を促す指導の工夫が大切です。児童生徒質問紙では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」が全国の結果を上回っています。また、学校質問紙では、「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている」が全国の結果を大きく上回っています。今後更なる学力向上を期して、家庭学習の充実に向けた指導、補充的な学習や発展的な学習の取組、自ら「問い」をもつことができる子どもの育成に向けた指導などに、全校体制で組織的・継続的に取り組むことが求められます。

⑤ 豊かな教育力を生む学校・家庭・地域の強い連携

学校・家庭・地域等のオール秋田でつくってきたすばらしい教育環境が、本県の教育の強みです。子どもたちの授業に向かう姿勢や家庭学習の取組の充実なども、それと関わりがあります。本県では、学校から家庭や地域への働き掛け・呼び掛けが特に丁寧にされており、学校・家庭・地域の豊かな連携を生み出しています。

● 学力向上に関する資料

美の国あきたネット (<http://www.pref.akita.lg.jp>) > 部署別 > 教育庁 > 義務教育課

・ 学校改善支援プラン ・ 秋田県学習状況調査 ・ 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業

等



令和元年度
秋田県検証改善委員会

委員一覧

※敬称略
令和元年6月現在

成田 雅樹	秋田大学教育文化学部教授
阿部 昇	秋田大学大学院教育学研究科特別教授
佐々木 雅子	秋田大学教育文化学部教授
石川 政昭	義務教育課長
坂本 寿孝	総合教育センター副所長
藤嶋 俊英	大館市教育研究所長
伊藤 裕	秋田市教育研究所長
加藤 和彦	男鹿市教育委員会学校教育課長
櫻田 武	大仙市教育研究所長
六部 勇二	大館市立城南小学校長
武蔵 優紀	大仙市立大曲小学校長
沢屋 隆世	大仙市立大曲中学校長
畑 朋幸	義務教育課副主幹兼指導班長
櫻庭 直美	義務教育課副主幹兼学力向上推進班長

藤原 孝一	義務教育課副主幹
高橋 正史	義務教育課主任指導主事
小西 力	義務教育課主任指導主事
亀沢 勉	総合教育センター主任指導主事
齊藤 正稔	総合教育センター主任指導主事
八田 浩彦	北教育事務所指導主事
柴田 誠	北教育事務所山本出張所指導主事
京野 真樹	中央教育事務所指導主事
倉田 和人	中央教育事務所由利出張所指導主事
小田 長早苗	南教育事務所仙北出張所指導主事
滝沢 剛	義務教育課指導主事
長門 亮	義務教育課指導主事
真崎 敦史	義務教育課指導主事
望月 直哉	義務教育課指導主事